

令和三年度大阪信愛学院高等学校 入学試験問題

《 国 語 科 》

設問の都合で、本文及び表記を一部改めています。
字数制限のあるものは、指示がない限り、句読点を含むものとします。

「二」次の文章を読み、後の問いに答えなさい。ただし、出題の都合上、本文は一部省略してあります。

では、どうしたら考える力を養うことができるのか。

これはもう、何はともあれ、（ 1 ）を増やすことから始めるしかありません。

X 「考える」とは、自分の中にある情報（インプット）をもとに、自分なりの結論（アウトプット）を導き出す作業です。
質の高い（ 2 ）をするためには、まずは（ 3 ）が**フカケツ**^aなのです。

実は私は、NHKの「週刊こどもニュース」を担当して、初めてインプットがスムーズになったという思いがあります。
もちろん記者時代、記事を書いて（ 4 ）をしていたのですが、その時代はとにかく取材したものをそのまま記事にしていた
だけでした。

記者としての**クレン**^bを受けたとき「中学校を卒業して社会経験数年の人にもわかる原稿を書け」と指導されたのですが、自分
の知ったことを、小学生にもわかるように伝えようという意識はまったく持っていませんでした。

そういえば新人時代、記者の原稿をチェックする立場のデスクが、「書類送検なんて難しい言葉を使うな、書類を検察庁に送り
ました、と書け」と指導していたことを思い出しました。「書類送検」とは、警察が容疑者を逮捕しないで取り調べ、調べた書類
を検察庁に送ることです。検察庁に送るから「送検」です。^①

それまでの私は、自分で知ったことを「伝える^②」という意識が足りなかった。ただ独りよがり「これでわかるだろう」と思い
込んでいただけだったと思い知りました。「週刊こどもニュース」を始めてからは、Y、小学校高学年の子どもたちにニュー
スをわかってもらわなければなりません。そのためには、「どのような伝え方をすればいいのだろうか？」という問題意識につな
がります。そのうえで、「この話を入り口にもってきたらどうか」とか、「何か適当なたとえ話はないだろうか」とか、さまざまな
ことを調べ始めます。そして、とことん考える。

あるとき、番組で「国の予算」について取り上げたことがありました。「日本は国のお金が足りないので、国債という借金をし
ています」と説明しました。すると視聴者の子どもからハガキが届きました。

「国にお金が足りなければ、もっとお金を**スレ**^cばいいんじゃないですか？」

②

そこで経済学の教科書や参考書を片っ端から調べました。Z そんな根本的な説明はどの本にも**載**^dっていなかったのです。仕

方がありません。私は本に頼らずに自分で考えて、わかりやすく説明するための模型をつくってもらいました。

そこで初めて「インプット^③」というのは、こうするんだ^③と、わかった気がしたのです。

アウトプットはインプットの力を引き出すのです。そこで、読者のあなたに**ティアン**^eです。「知識が身についたかな」と思えば、
ぜひそれを誰かに伝えてみてください。

実際に伝えてみようと思うと、きつと思いのほかうまくいかないはずです。そこで「なぜだろう」と考える。必要だと思えば、
さらに周辺情報を調べていく。たぶんこれが重要なのです。

（池上彰『考える力』より）

問 1 二重傍線部 a 「フカケツ」・ b 「クレン」・ c 「ス」・ d 「載」・ e 「ティアン」のうち、カタカナは漢字に改め、漢字に
ついては読みを記しなさい。

問 2 傍線部①「検察庁に送るから『送検』です」について、「送検」と同じ構成の熟語を次から選び、記号で答えなさい。
ア 伝達 イ 送付 ウ 退却 エ 登庁

問 3 傍線部②「伝える」は、「アウトプット」「インプット」のいずれに当たりますか。一語で答えなさい。

問4 文中の（1）（4）には、それぞれ「アウトプット」「インプット」のいずれかが入ります。あてはまるものを選び、「アウトプット」なら「ア」、「インプット」なら「イ」と解答欄に記しなさい。

問5 文中の

X

Z

 に補うべき語をそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。
アだから イとところが ウそもそも エとにかく オなまじ

問6 文中の

②

 には次の四つの文の組み合わせが入ります。正しい並び順を考えて、あくえの記号で答えなさい。
あ 大人なら、国がお札をどんどんスればインフレになることを知っています。
い 政府が（正確には日銀ですが）お金をどんどんスったらインフレになるということを、どう説明したらいいのか。
う なるほど、いい質問です。
え でも、子供にはそんなことはわかりません。

問7 傍線部③『インプットというのは、こうするんだ』と、わかった気がした』について、筆者がわかったことの内容を、「考える」「調べる」「伝える」のうち二語以上を必ず用いて、「とわかった。」につながるよう四十字以内で説明しなさい。

問8 本文を三段落構成と考えた場合、第二段落、第三段落はどこから始まりますか。それぞれ最初の一文節を抜き出して示しなさい。

「二」次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小学校5年のひろ子は家の家計を助けるために、キャラメル工場で働いている。

ひろ子はいつものように弟の寝ている蒲団ふとんの裾すそをまくり上げた隙間すきまで、朝飯を食べ始めた。あお黒い小さな顔がまだ眠そうに腫れていた。台所では祖母がお釜かまを前に、明かりにすかすようにして弁当を詰めていた。明け方の寒さが手を動かしても身体中にしみた。どこかで朝の仕度aをする音が時々聞えた。

ひろ子は眉の間を吊りあげてやけに御飯をふうふう吹いていたが、やがて一膳終ぜんえるとそそくさと立ち上がった。

「おや御飯は」

「おしまい」

ひろ子はもう火鉢ひばちの抽出ひきだしから電車賃を出していた。

「おしまいじゃないよ。もう一杯食べといで、まだ遅くなりやしないから。さあ。」

「だって急いで食べられない」

祖母の手に茶碗ちやわんを渡してやりながらひろ子は泣声を出した。

「急いで食べられないたってお前こんな寒い日に熱い御飯でも食べなきゃこごえてしまうよ。」

「だって遅くなるとこまるんですもの」

つい四、五日前に彼女は初めて遅刻した。だが彼女の工場には遅刻がなかった。工場の門限はきっちり七時であった。遅れた彼女はその日一日を否応いやおうなしに休ませられた。彼女たちの僅かな日給では遅刻の分を引くのがメンドウbだったから。その朝彼女は電車の中で遅れそうなことを感づいた。身ざれいな女などが乗り始めていて労働者風の姿が消えていた。彼女は車内の空気で時間を見ようとするように落ちつきなく目を走らせた。彼女はとうとう、入り口まで出て行った。その時そこに吊り下がっていた割引※1の板札を、片手で胸から時計を引出した車掌がまくりあげてひっかけた。

あたりが、変わったように思われた。電車はひろ子が下りるテリリュウ所cの一つ手前までもう来ていたのに、停留所のちよつと手前にソdうて、彼女の工場の赤煉瓦れんがが長屋のように横につづいて、その中の一つに彼女の入口があった。ひろ子は見落とすまいと、その一つ一つの入口を見つめた。押されるような何かかけまわるようなイヤな腹痛を覚えた。e

彼女は電車から入口へ駆けつけた。そして電車②で見た通りだった。

彼女が家を出たのは暗い内だった。彼女の電車賃は家内中かき集めた銅貨だった。だが彼女の前には鋼鉄の鉄戸が一ぱいに下りていた。彼女は間に合わなかった。工場の門限は七時だ。彼女は、コソコソとそこを通りぬけた。彼女はマントの下で弁当箱を両

手でしっかりと抱いてそれで胸の上をぐつと押さえて歩いた。彼女はベソをかいていた。人通りが多くなっていた。往来は彼女の朝から別の朝へ移っていた。

ひろ子はこごえるよりも遅刻がおそろしかった。

祖母に咎められながら朝飯をすませたひろ子は、襟巻に顔をうずめて、戦に行くような気持ちで歩いて行った。外は、

※2 ほおは

夜明けの明かるさだ。そしてきしむように寒い。橋の上では朴歯が何度かすべった。

A

まだ電灯のついていない電車は、印^{※3} 絆^{しるしばんてん} 纏^{※4} や菜葉服で一ぱいだった。皆寒さに抗^{あらが}うように赤い顔をしていた。味噌汁^{みそ}をかきこみ

ひろ子は大人たちの足の間から割り込んだ。彼女も同じ労働者であった。か弱い小さな労働者、馬に食われる一本の草のような。

「感心だね、ねえちゃん。どこまで行くんだい」

席をあけてくれた小父さんおじが言葉をかけた。

「お父ちゃんはどうしてんだい」

「仕事がないの」

ひろ子はそれを言うのが恥ずかしかった。

「おや、あそんでんのかい。そいつはたまらないな」

そう言つて彼は親しげな顔付きをした。その車内では周囲の痛ましげな眼が一斉に彼女にそそがれはしなかつた。

彼らにとってはそれが自分たち自身のことであり、彼女の姿は彼らの子供たちの姿であつたから。

(佐多稲子『キャラメル工場から』より)

※1 割引の板札 当時、早朝の電車賃には割引があり、七時になると市電の入口の所に下がっている割引の札が片付けられた。

※2 朴齒
ホオノキで作ったげたの齒、またその齒をつけたげた

※3 印絆纏 大工、左官、植木屋などの職人たちが着る仕事着

※４ 菜葉服 工場に働きに出る者などが着る作業服

問1 二重傍線部 a 「仕度」・ b 「メンドウ」・ c 「テイリユウ」・ d 「ソ」・ e 「イヤ」のうち、カタカナは漢字に改め、漢字については読みを記しなさい。

問2 傍線部 x 「ざま」、y 「げ」の使い方として正しいものを一つ選んで記号で答えなさい。

X
ア
彼の生きざまに感動を覚えた。

イ車のクラクションが続けざまに鳴った。

y
ア
あの店に並んでいるケーキはどれもおいしげだ。

イ外を見ると真つ暗でもうじき雨が降りげだ。

ウ　さまざまなお菓子が並んでいる。

突然風が吹いてきて帽子が飛びげになった。

問3 本文にはひろ子の回想シーンがある。その部分の初めと終わりの部分をそれぞれ五文字で抜き出しなさい。

問4 傍線部①「台所では祖母がお釜の前に、明かりにすかすようにして弁当を詰めていた。」からわかることがらとして最も適当なものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア 弁当箱が小さくて、おかずをつめきれない様子。

イ 祖母が高齢のためよく目が見えていない様子。

明け方の寒さで祖母の手がかじかんでいる様子。

エ 朝といつても非常に早く、外がまだ暗い様子。

問5 傍線部②「電車で見た通り」とはどういうことですか、内容を考えて、空欄にあてはまるように答えなさい。

ア
おり、
ひろ子が
イ
ということ。

問6 傍線部③「彼女の朝から別の朝へ移っていた」とはどういうことですか。「彼女の朝」、「別の朝」に分けて、説明しなさい。

問7 空欄Aにあてはまる語句として最も適当なものを次から選んで記号で答えなさい。

ア 洗いたてのまな板のような

イ
とぎたての包丁のような

ウ
買ったてのフライパンのような

エ おろしたての大根のような

「三」 次の古文を読み、後の問いに答えなさい。

今は昔、延興寺といふ寺あり。その寺にえらい恵暎といふ僧住みけり。年ごろこの寺に住む間に、寺の温室分の薪たきぎ一束を取りて人に与へたりけるに、その後つぐなふこと無く、恵暎死にけり。

※2

しかる間、その寺のほとりに、もとより牝牛めうしありけり。一の子牛を生みてけり。その子牛長大して後、その子牛に車をかけて、薪を積みて寺の内に入る。その時に、知らぬ僧寺の門に出で来たりて、この子牛を見ていはく、「恵暎法師は生きたりし時ねはんじやう涅槃経を明け暮れ明け暮れ読みたてまつりしかども、車引くことこそあはれなれ」と。子牛これを聞きて、涙を流して、たちまちに

※3

倒れて死す。子牛の主これを見て、大きに怒りて、その知らぬ僧をののしりて、「汝なんぢがこの牛をば呪ひ殺しつるなり」と言ひて、すなはち僧を捕らへて、公に率※4て行きて、この由よしを申す。

③

公これを聞こしめして、そのゆゑを問はしめたまはむとして、aまづ僧を召して見たまふに、僧の形ありさま端正にして、た

※5

が

b

行はむ

c

ことを恐れて、清き所に僧をすゑて、やむことなき絵師

※6

せんじ

どもを召して、「この僧の形ありさま、世に似ず端正なり。されば、この形をあやまたず書きてたてまつるべし」と。絵師ら宣旨をたてまつりて、各々筆を振るひて書写して持て参りたる。公これを見たまふに、もとの僧の形にはあらずして、皆観音の像なり。その時に僧かき消つやうに失せぬ。⑤ しかれば、公驚き恐れたまふこと限りなし。

⑥

これ、あらはに知りぬ、観音の恵暎が牛となれることを人に知らしめむが為、僧の形となりて示したまふなりけり。牛の主これを知らずして、僧に咎を行はむとすることを悔ひ悲しみけり。

※7

ちくしょう

人これをもつて知るべし、一塵の物なりといへども、借用せし物をばたしかに返すべきなり。返さずして死ぬれば、必ず畜生となりて、これをつぐなふなり、となむ語り伝へたりとや。

（『今昔物語集』 日本古典文学大系）

- ※1 寺の温室分の薪 寺の所有物である、浴室用の薪
※2 長大して 成長して ※3 涅槃経 仏教の經典の一つ。
※4 公 朝廷。 ※5 咎 罰。
※6 宣旨 天皇の命令。 ※7 一塵の物 ほんのわずかな物。

問1 □で囲った a 「まづ」・b 「行はむ」・c 「すゑて」・d 「やう」の読みをすべて現代かなづかいで記しなさい。

問2 傍線部①「つぐなふ」は、ここでは具体的にどうすることを意味していますか。文中の動詞を一語抜き出して示しなさい。

問3 傍線部②「恵暎法師は生きたりし時 涅槃経を明け暮れ明け暮れ読み奉りしかども、車引くことこそあはれなれ」という発言からは、「知らぬ僧」のどういう思いが読み取れますか。次から選び、記号で答えなさい。

- ア 生前 信心深かった恵暎法師が、今や車を引く立場に身を落としていることへのあわれみ。
イ 恵暎法師は生前 経を読むことにばかり熱心で、車を引くような実労働をしなかったという非難。
ウ 恵暎法師は生前 仏道にばかり熱心だったが、本当の趣深さは車引きのような実労働にあるという気づき。
エ 経を読んばかりの法師よりも、車を引く子牛の方がかわいそうだという、子牛への同情。

問4 傍線部③「これ」・④「そ」の指す内容として最も適切なものをそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。

- ア 知らぬ僧が子牛を見て言葉を発したこと。
イ 知らぬ僧が言葉をかけたことよって子牛が死んだこと。
ウ 子牛の主が、知らぬ僧に子牛を殺され怒っていること。
エ 子牛の主が、子牛を殺されたことを朝廷に訴えたこと。

問5 傍線部⑤「その時に僧かき消つやうに失せぬ。」の一文が表しているのはどういうことですか。十五〜二十字で簡潔に述べなさい。

問6 ⑥の□の□と同じ働きの□の□を含むものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 今は昔、竹取の翁といふものありけり。
イ 春はあけぼの。……紫だちたる雲の細くたなびきたる。
ウ ただ春の夜の夢のごとし。
エ 道祖神の招きにあひて取るものにつかず。

問7 問題文と同じ「説話」という文学ジャンルに属する作品を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 源氏物語 イ 平家物語 ウ 宇治拾遺物語 エ 徒然草

問 6

③

問 7

③

問 1	a	不可欠
	b	訓練
	c	刷
	d	の
	e	提案

②×5

問 2	エ	③
問 3	アウトプット	②
問 4	1	②×4
	イ	
	2	
	ア	
	3	
	イ	
	4	
	ア	

問 5
X
ウ
Y
エ
Z
イ

②×3

問 6
う
↓
あ
↓
え
↓
い

完答③

問 7	
分	相
で	手
考	に
え	伝
る	え
の	る
が	意
、	識
本	を
当	持
の	っ
イ	て
ン	と
プ	こ
ッ	と
ト	ん
だ	調
。	べ
	、
	自
とわかった	④

問 8	第二段落	実は	第三段落	アウトプットは	②×2
-----	------	----	------	---------	-----

二問	1	a	したく	b	面倒	c	停留	d	沿	e	嫌
----	---	---	-----	---	----	---	----	---	---	---	---

②×5

問 2	X
エ	Y
ウ	
②×2	

問 3	初め
つ	い
四	
	、
五	終わり
つ	て
い	た
	。
②	

問 4	エ
②	

[illegible]

問 6	
彼の朝	彼女の朝
一日の仕事がなくし、家に戻るしかない朝	工場での労働を始めるいつもの朝

③ × 2

問 7	イ
--------	---

②

②	×4
---	----

問 2	返す	③
問 3	ア	③
問 4	ウ	④
③×2	ア	

問5	僧がたしかに観音であつたこと。
----	-----------------

④

問 6
イ

③

問 7
ウ

③